

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「あおぞら・世界配当成長株ベガ・ファンド（毎月分配型）“愛称くらだし”」は、去る10月25日に第108期の決算を行いました。本ファンドは日本を含む世界の株式等を主要投資対象とし、保有する資産・通貨にかかるコール・オプションを売却するカバードコール戦略も活用することで、インカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行っております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、法令に基づいて運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第108期末（2024年10月25日）

基準価額 2,983円

純資産総額 535百万円

第103期～第108期
（2024年4月26日～2024年10月25日）

騰落率 $\triangle 1.7\%$

分配金合計 60円

（注1）騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

（注2）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○本ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。また、運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）閲覧方法>

右記URLにアクセス ⇒ 「ファンド情報」を選択 ⇒ 「基準価額一覧」より該当のファンドを選択 ⇒ 「運用報告書（全体版）」を選択



交付運用報告書

あおぞら・世界配当成長株ベガ・ファンド
（毎月分配型）

愛称 **くらだし**

追加型投信／内外／株式

第18作成期

決算日

第103期 2024年5月27日 第106期 2024年8月26日

第104期 2024年6月25日 第107期 2024年9月25日

第105期 2024年7月25日 第108期 2024年10月25日

作成対象期間（2024年4月26日～2024年10月25日）

あおぞら投信株式会社

東京都千代田区麹町6-1-1

■ホームページアドレス（基準価額をご確認いただけます。）

<https://www.aozora-im.co.jp/>



■お問い合わせ先

<お問い合わせ窓口>

050-3199-6343

受付時間：
営業日の午前9時から
午後5時まで

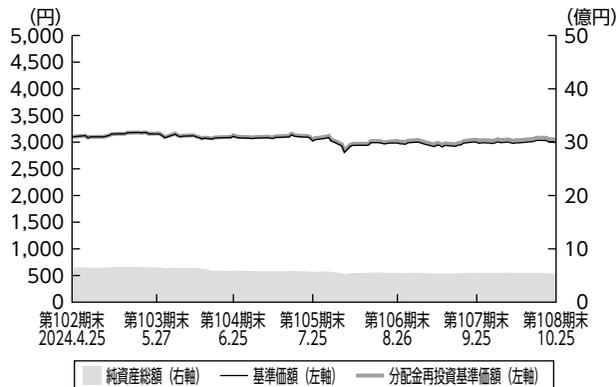
*お取引内容等につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。



アンケートへのご協力をお願い
巻末（15ページ）をご参照ください。

運用経過（2024年4月26日～2024年10月25日）

基準価額等の推移



第103期首：3,095円
第108期末：2,983円（既払分配金60円）
騰落率：△1.7%（分配金再投資ベース）

- *分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- *分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客さまの損益の状況を示すものではありません。
- *分配金再投資基準価額は、期首（2024年4月25日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- *上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、当作成期末において2,983円となり、当作成期のリターンは1.7%（信託報酬控除後、分配金再投資後）の下落となりました。当作成期においては、配当成長株要因が大幅プラス寄与となったことに加えて、通貨オプション戦略要因がプラス寄与となったものの、為替要因が大幅マイナス寄与となったことに加えて、株式オプション戦略要因がマイナス寄与となりました。

1 万口当たりの費用明細 (2024年4月26日～2024年10月25日)

項目	第103期～第108期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	17	0.571	(a) 信託報酬 = [当作成期間中の平均基準価額] × 信託報酬率 当作成期間中の平均基準価額は3,060円です。
(投信会社)	(9)	(0.279)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(9)	(0.278)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(0)	(0.014)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	3	0.099	(b) その他費用 = $\frac{[\text{当作成期間中のその他費用}]}{[\text{当作成期間中の平均受益権口数}]}$
(監査費用)	(2)	(0.061)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(1)	(0.038)	目論見書等の法定書類の作成・印刷・届出および交付に係る費用ならびにファンドの計理業務およびこれらに付随する業務に係る費用
合計	20	0.670	

(注1) 当作成期間中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

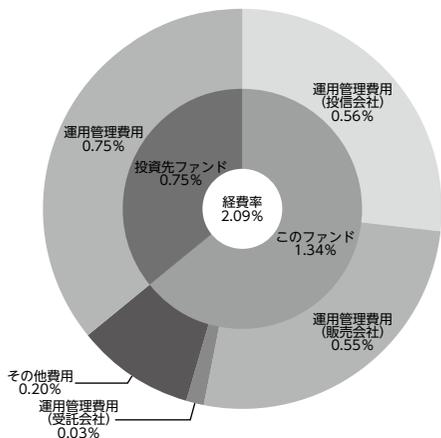
(注3) 「比率」欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)」を当作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く)が支払った費用を含みません。

(参考情報)

経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した経費率(年率)は2.09%です。



経費率 (①+②)	2.09%
①このファンドの費用の比率	1.34%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.75%

(注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

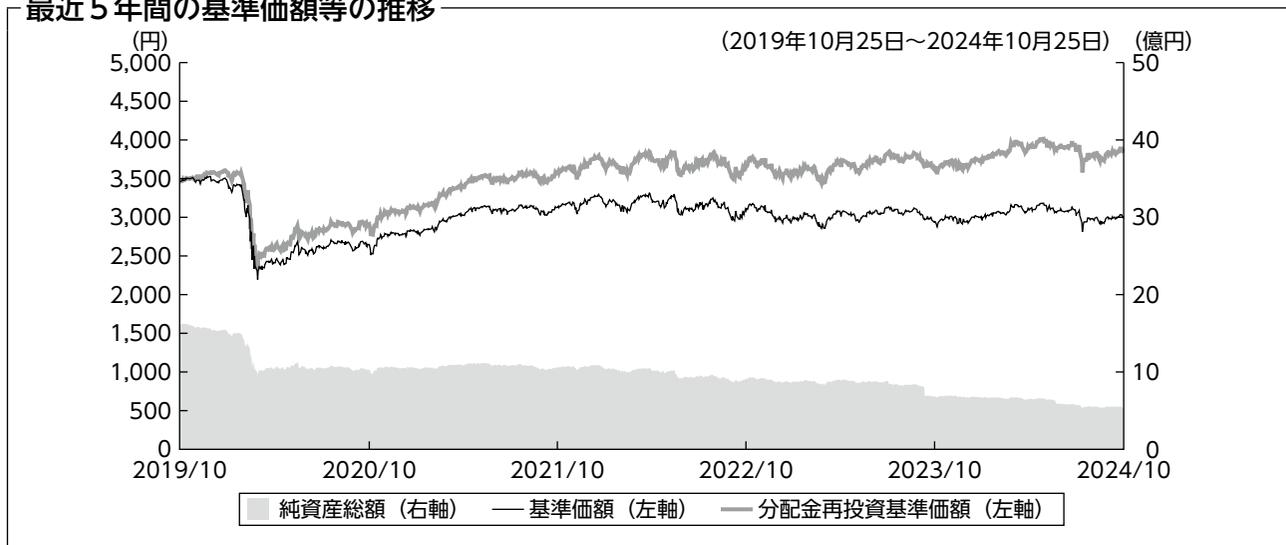
(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注7) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の本質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2019年10月25日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

決算日		2019年10月25日 (期初)	2020年10月26日 (決算日)	2021年10月25日 (決算日)	2022年10月25日 (決算日)	2023年10月25日 (決算日)	2024年10月25日 (決算日)
基準価額	(円)	3,460	2,648	3,127	3,086	2,945	2,983
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	290	120	120	120	120
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	△15.9	22.9	2.5	△0.7	5.4
純資産総額	(百万円)	1,608	1,029	1,056	905	682	535

(注1) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。また、純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注2) 本ファンドは複数の投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。本ファンドは、日本を含む世界の主要取引所に上場されている、相対的に配当利回りと増配（配当成長）の可能性が高いと判断される株式等に投資を行うことを基本方針としております。また、株式カバードコール戦略および通貨カバードコール戦略を活用し、オプション・プレミアム（オプション売却の対価として受け取る権利料）の獲得を目指します。このため、本ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を設けておりません。

投資環境

<株式市場>

先進国株式市場は上昇しました。当作成期初は、米CPI（消費者物価指数）とPPI（卸売物価指数）の伸びが鈍化すると、FRB（米連邦準備理事会）による年内利下げ観測や米景気のソフトランディング（軟着陸）期待が高まったことに加えて、生成AI（人工知能）向け半導体需要拡大期待も追い風となり、上昇しました。その後、米大統領選挙や欧州政治を巡る不透明感、中国の景気減速懸念が嫌気されたものの、6月にECB（欧州中央銀行）が利下げを開始したことに加えて、米労働市場の減速やインフレ鈍化を示す米経済指標を背景に、FRBによる早期利下げ観測が台頭したことが支えとなりました。8月初には、米景気減速懸念を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、世界的に大幅下落となりましたが、その後発表された堅調な米経済指標を受けて急速に持ち直したほか、9月にはECBが追加利下げを決定し、FRBも4年半ぶりに大幅利下げを決定したことから、景気のソフトランディング期待が追い風となりました。期末にかけては、中東情勢の緊迫化や米大統領選を巡る不透明感が重石となったものの、中国の追加景気刺激策への期待や、好業績銘柄の上昇が支えとなり、先進国株式市場は上昇基調を維持しました。

<為替市場>

ドル円為替レートは当作成期中乱高下が見られた中、円高となりました。4月末に開催された日銀金融政策決定会合で緩和的な金融政策維持が決定されたことや、7月開催の日銀金融政策決定会合で追加利上げが決定されたものの、長期国債の買い入れ減額が先送りされると、161円台まで円安が進みました。しかし、政府/日銀による円買い介入と見られる動きや日銀による追加利上げを受けて、円が急伸しました。当作成期末にかけては、FRBが大幅利下げを決定したことや中東情勢の緊迫化を受けて143円台まで円買いが進む場面も見られましたが、石破首相が日銀の追加利上げに否定的な姿勢を示したことや、堅調な米経済指標が相次いだことを背景に、FRBによる利下げがより緩やかなペースになるとの見方から150円台まで戻しました。

<短期金融市場>

短期金融市場においては、2024年3月に日銀がマイナス金利政策の解除を決定した後、無担保コール翌日物がプラス圏で推移したほか、国庫短期証券（3ヵ月物）の利回りは0.00%前後から+0.10%前後で推移しました。

当該投資信託のポートフォリオ

本ファンドの運用方針に従い、主要投資対象であるケイマン籍円建て外国投資信託受益証券「TCWファンズ - TCWグローバル・ディビデンド・スターズ・プレミアム・ファンド カレンシー・プレミアム・シェアクラス」への組入比率を高位に保つことで、主として、世界の主要取引所に上場されている、相対的に配当利回りが増配（配当成長）の可能性が高いと判断される株式等に投資を行うと同時に、株式カバードコール戦略および通貨カバードコール戦略を活用してオプション・プレミアム（オプション売却の対価として受け取る権利料）の獲得を目指すことで、インカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

組入れファンドにおける当作成期の運用状況は以下の通りです。

<TCWファンズ - TCWグローバル・ディビデンド・スターズ・プレミアム・ファンド カレンシー・プレミアム・シェアクラス>

S & P 500配当貴族指数およびS & Pグローバル配当貴族指数の構成銘柄を中心として、世界の主要取引所に上場されている相対的に配当利回りが高く、増配（配当成長）の可能性が高いと判断される株式等を組み入れると同時に、株式カバードコール戦略および通貨カバードコール戦略を活用してオプション・プレミアム（オプション売却の対価として受け取る権利料）の獲得を目指すことで、インカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。2024年9月末時点の組入銘柄数は30銘柄、加重平均配当利回りは2.8%（年率）となっています。

一方、株式カバードコール戦略は、組み入れている23銘柄に対してコール・オプションを売却し、2024年9月末時点でのカバー率は61.7%、オプション・プレミアムは6.0%（年率）、平均行使価格は101.6%、平均行使期間は33.2日となっています。

また、通貨カバードコール戦略に関しては、2024年9月末時点でのカバー率は95.3%、オプション・プレミアムは13.9%（年率）、平均行使価格は100.0%、平均行使期間は31.0日となっています。

<あおぞら・マネー・マザーファンド>

本邦通貨表示の短期公社債等を主要投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行いました。主要投資対象となっていた第336回利付国債（2年）が2016年1月に償還を迎えた後、有担保コール翌日物および金銭信託による運用を続けており、当作成期末時点では有担保コール翌日物が主要投資対象となっています。

当該投資信託のベンチマークとの差異

本ファンドは運用の目標となるベンチマークや参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

分配金（1万口当たり、税引前）

本ファンドの収益分配方針に従い、基準価額水準や市場動向等を勘案し第103期から第108期まで各期10円の収益分配を行いました。留保金の運用については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円・%、1万口当たり、税引前）

	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期	第108期
	自 2024年4月26日 至 2024年5月27日	自 2024年5月28日 至 2024年6月25日	自 2024年6月26日 至 2024年7月25日	自 2024年7月26日 至 2024年8月26日	自 2024年8月27日 至 2024年9月25日	自 2024年9月26日 至 2024年10月25日
当期分配金	10	10	10	10	10	10
（対基準価額比率）	0.316	0.321	0.330	0.334	0.333	0.334
当期の収益	—	—	—	—	0	—
当期の収益以外	10	10	10	10	9	10
翌期繰越分配対象額	1,444	1,434	1,424	1,414	1,404	1,394

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<本ファンド>

今後も当初の運用方針に従い、主要投資対象であるケイマン籍円建て外国投資信託受益証券「TCWファンズ - TCWグローバル・ディビデンド・スターズ・プレミアム・ファンド カレンシー・プレミアム・シェアクラス」への組入比率を高位に保つことで、主として、世界の主要取引所に上場されている、相対的に配当利回りと増配（配当成長）の可能性が高いと判断される株式等に投資を行うと同時に、株式カバードコール戦略および通貨カバードコール戦略を活用してオプション・プレミアム（オプション売却の対価として受け取る権利料）の獲得を目指すことで、インカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

<TCWファンズ - TCWグローバル・ディビデンド・スターズ・プレミアム・ファンド カレンシー・プレミアム・シェアクラス>

当作成期はボラティリティが高まる場面が見られたものの、期を通じて株式市場は総じて堅調に推移しました。マグニフィセント7銘柄が引き続き相場の上昇を牽引する中、それ以外の銘柄も、堅調な企業業績と比較的底堅い米経済見通しが支えとなり上昇しました。当作成期後半の7月と8月においては市場全体が売り込まれ、ボラティリティが高まりましたが、FRBの2%インフレ目標達成と米景気のソフトランディング期待が高まると、S&P500は史上最高値近辺まで上昇しました。米CPIが前年比3.4%から2.4%に低下する中、FRBは9月初旬のFOMCで政策金利を0.5%引き下げる形で利下げサイクルを開始しました。投資家は、FRBが過去40年間で最も積極的な利上げを行っていたにもかかわらず、足元で底堅く推移している米景気の下支えになると、利下げ開始を好感しました。

2024年の米GDP(国内総生産)は2.6%成長を見込んでおり、EPS(1株あたり利益)成長率は8%と予想されています。失業率が3.8%から4.2%に上昇し、平均時給の伸びが3.9%にとどまっているにもかかわらず、消費者は予想以上に健全であることが確認されました。また、住宅市場も30年固定ローンの平均金利が期末時点で6.7%近辺と、2000年以降に見られなかった高水準で推移しているにもかかわらず健全性を維持しており、住宅ローン金利の低下が見込まれることで、住宅市況のさらなる改善が期待されます。地政学リスクについては、ロシアによるウクライナ侵攻や中東情勢の緊迫化などの不確実性が高まっています。ただ、中国が新型コロナウイルス禍以来最大となる景気刺激策を打ち出し、世界的な経済成長見通しに対する懸念を和らげたことが支えとなりました。

このような環境下においても、本ファンドの投資方針に変更はありません。リスク対比で良好なリターンを獲得出来ると判断した企業に投資を続けると同時に、市場リスクからの乖離を厳格に管理するというものです。業績が景気動向に左右されにくい特性を持つ企業に投資することによって、今後もボラティリティが上昇する局面をうまく乗り切ることができると考えています。

また、本ファンドのカバードコール戦略については、引き続き、カバー率を高め、平均行使期間を長期化することで、インプライド・ボラティリティ(予想変動率)の上昇を享受すると同時に、行使価格から離れたオプションを活用することによって、株式市場の上下動を回避することを目指しています。しばらくは相応な注意が必要であると考えていますが、カバードコール戦略を含めたディフェンシブな本ファンドの戦略が、中長期的にプラス寄与することを期待しています。

<あおぞら・マネー・マザーファンド>

今後も当初の運用方針に従い、引き続き、本邦通貨表示の短期公社債等を主要投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。

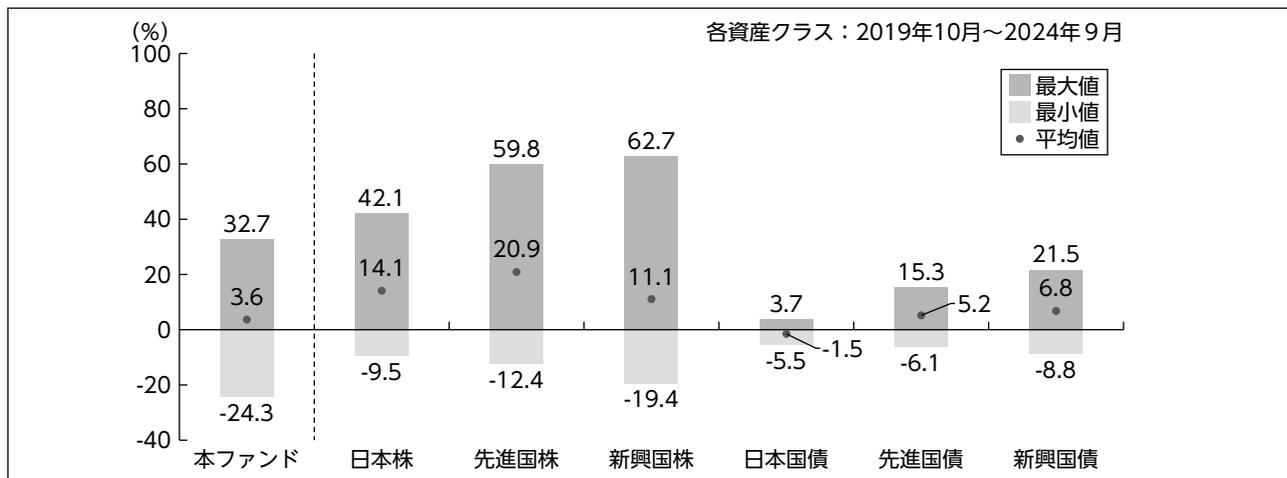
お知らせ

2024年11月5日以降、原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2025年10月27日まで
運用方針	主として、日本を含む世界の株式等に投資を行うことで、インカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。
主要投資対象	以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ケイマン籍外国投資信託受益証券（円建て） TCWファンズ - TCWグローバル・ディビデンド・スターズ・プレミアム・ファンド カレンシー・プレミアム・シェアクラス ・親投資信託 あおぞら・マネー・マザーファンド
運用方法	①主として、日本を含む世界の主要取引所に上場されている株式等（預託証券（DR）、上場投資信託（ETF）および不動産投資信託（REIT）等を含みます。）を主要投資対象とする別に定める投資信託証券に投資を行います。 ②上記に定める株式等は、主として相対的に配当利回りおよび増配の可能性が高いと判断されるものとします。 ③外国籍投資信託証券の組入比率は原則として高位を保ちます。 ④外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行いません。
分配方針	分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額の範囲とし、収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は分配を行わない場合があります。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2019年10月～2024年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を、本ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示したものです。

※上記は、本ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

※本ファンドの年間騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<代表的な各資産クラスの指数>

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCI-KOKUSA1インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

※騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

※東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、日本の株式市場を広範に網羅し、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。同指数の指数値及び同指数に係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社の知的財産です。

※MSCI-KOKUSA1インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

※MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

※NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す指数です。なお、NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

※FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

※JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当該投資信託のデータ

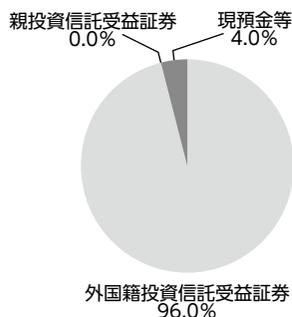
当該投資信託の組入資産の内容（2024年10月25日現在）

○組入ファンド（2銘柄）

	組入比率
TCWファンズ・TCWグローバル・ディビデンド・スターズ・プレミアム・ファンド カレンシー・プレミアム・シェアクラス	96.0%
あおぞら・マネー・マザーファンド	0.0%
その他	4.0%

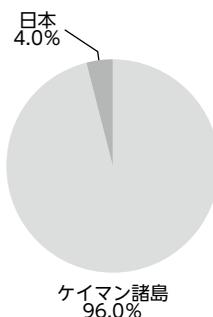
※組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

○資産別配分



※比率は純資産総額に対する割合です。

○国別配分



○通貨別配分



○純資産等

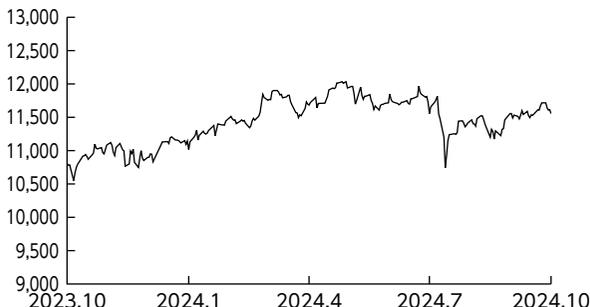
項目	第103期末	第104期末	第105期末	第106期末	第107期末	第108期末
	2024年5月27日	2024年6月25日	2024年7月25日	2024年8月26日	2024年9月25日	2024年10月25日
純資産総額	651,980,742円	591,692,092円	565,392,788円	551,917,983円	552,419,024円	535,185,480円
受益権総口数	2,067,697,176口	1,902,278,474口	1,871,026,619口	1,849,589,407口	1,844,551,180口	1,794,052,048口
1万口当たり基準価額	3,153円	3,110円	3,022円	2,984円	2,995円	2,983円

※当作成期間中における追加設定元本額は37,570,552円、同解約元本額は337,318,977円です。

組入上位ファンド（銘柄）の概要

TCWファンズ・TCWグローバル・ディビデンド・スターズ・プレミアム・ファンド カレンシー・プレミアム・シェアクラス

基準価額の推移（2023年10月25日～2024年10月25日）



(注1) 当該ファンドの当初組入れ時（2015年11月2日）を10,000として指数化しております。

(注2) 基準価額の数値は配当込みです。

○上位10銘柄

銘柄名	国名	業種名	比率
1 チャブ	スイス	金融	6.4%
2 WWグレインジャー	米国	資本財・サービス	6.3%
3 ニューコア	米国	素材	6.2%
4 エクソンモービル	米国	エネルギー	5.6%
5 モントリオール銀行	カナダ	金融	4.7%
6 コカ・コーラ	米国	生活必需品	4.6%
7 ユニリーバ ADR	英国	生活必需品	4.0%
8 バンク・オブ・ノバ・スコシア	カナダ	金融	3.8%
9 サノフィ ADR	フランス	ヘルスケア	3.7%
10 アフラック	米国	金融	3.5%
組入銘柄数		30銘柄	

(注1) 比率は純資産総額に対する割合です。

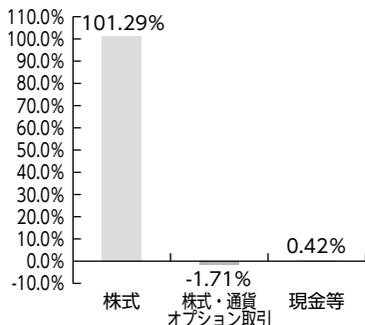
(注2) 銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注3) ADRとは、米国預託証券（American Depositary Receipt）のことです。非米国企業の株式を裏づけとして米国で発行（米ドル建て）される上場有価証券で、当該株式を保有するのとほぼ同じ効果を得ることができます。ADRの価格には、発行会社の自国通貨と米ドルとの間の為替変動の影響が含まれます。

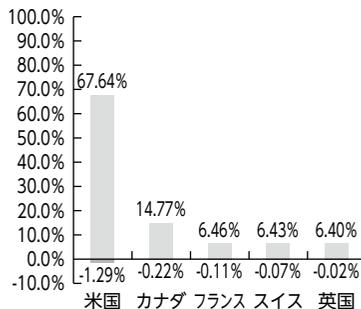
○1万口当たりの費用明細

TCWファンズ - TCWグローバル・ディビデンド・スターズ・プレミアム・ファンド カレンシー・プレミアム・シェアクラスのAnnual Reportには、1万口当たりの費用の明細が開示がされていないため、記載できません。

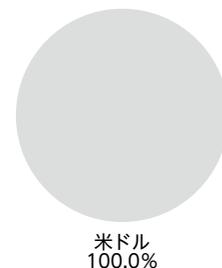
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2024年3月31日現在のものです。本データは、TCWファンズ - TCWグローバル・ディビデンド・スターズ・プレミアム・ファンド カレンシー・プレミアム・シェアクラスのAnnual Reportを基に委託会社が作成したものです。

(注2) 1万口当たりの費用の明細は組入れファンドの直近の決算期のものです。費用項目については2ページの注記をご参照ください。

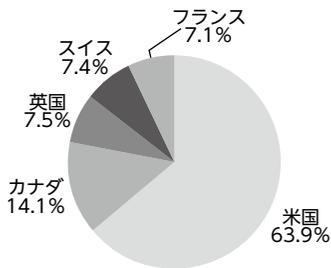
(注3) 資産別・国別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

<参考情報>

■指定投資信託証券の運用状況

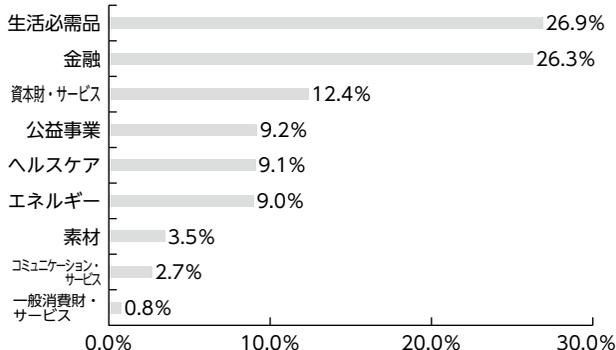
(注1) 指定投資信託証券の運用状況データは2024年9月30日現在のものです。本データは、TCWアセット・マネジメント・カンパニーからのデータを基に委託会社が作成したものです。
 (注2) 各項目の比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

○国別構成比



(注1) 国は当該銘柄の本社所在国を示しています。
 (注2) 保有株式の時価総額に対する割合です。

○業種別構成比



(注) 保有株式の時価総額に対する割合です。

通貨ポジション 米ドル 100.0%

○ポートフォリオ特性値

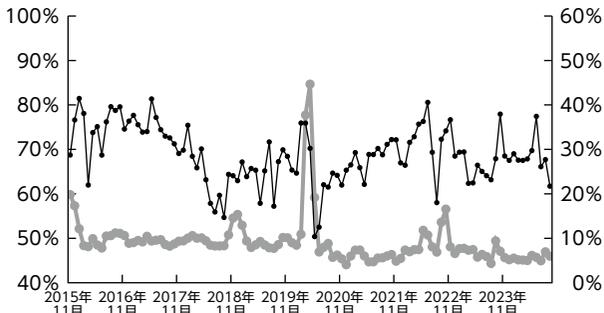
株式配当利回り 2.8%

	株式オプション部分	通貨オプション部分
カバー率	61.7%	95.3%
オプション・プレミアム (年率)	6.0%	13.9%
平均行使価格	101.6%	100.0%
平均行使期間	33.2日	31.0日

(注1) 配当利回りは組入れ銘柄（株式等）の加重平均配当利回り（実績配当ベース、税引前）です。
 (注2) カバー率とは、保有資産に対するコール・オプションのポジションの割合です。
 (注3) オプション・プレミアム（年率）は、カバードコール戦略におけるプレミアム収入を年率換算の上、当月末純資産残高で除して算出しています。
 (注4) 平均行使価格とは、コールオプションの平均行使価格をオプション取引の対象となる原資産（株式・通貨等の価格）の平均時価に対する比率で示したものです。

株式カバードコール戦略

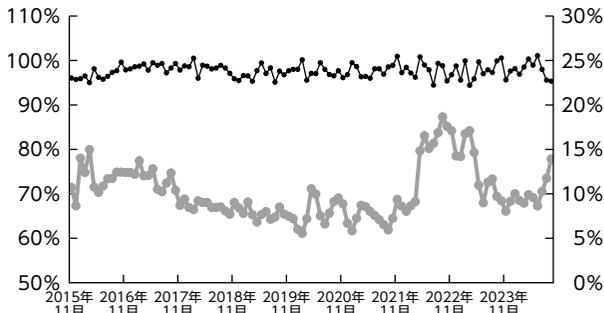
カバー率、オプション・プレミアム（年率）の推移



— カバー率 (左軸) — オプション・プレミアム (右軸・年率)

通貨カバードコール戦略

カバー率、オプション・プレミアム（年率）の推移



— カバー率 (左軸) — オプション・プレミアム (右軸・年率)

組入上位ファンド (銘柄) の概要

あおぞら・マネー・マザーファンド

基準価額の推移 (2023年3月16日~2024年3月15日)



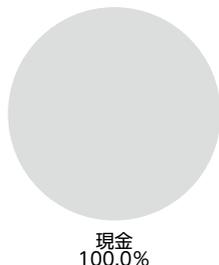
○上位10銘柄

2024年3月15日現在、該当事項はありません。

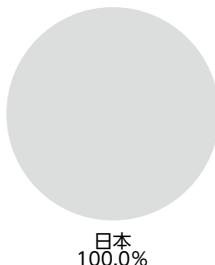
○1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合計	0	0.000

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2024年3月15日現在のものです。

(注2) 各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

(注3) 「比率」欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む)」を期中の平均基準価額 (9,927円) で除して100を乗じたものです。

(注4) 1万口当たりの費用の明細は組入れファンドの直近の決算期のものです。費用項目については2ページの注記をご参照ください。

(注5) 資産別・国別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(このページは白紙です)

（このページは白紙です）

【Webアンケートご回答のお願い】

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

ご投資いただいております「あおぞら・世界配当成長株ベガ・ファンド（毎月分配型）“愛称くらだし”」につきまして、受益者の皆さまに本ファンドおよび当社に関するご意見等をお聞かせいただきたく、アンケートへのご回答にご協力をお願いいたします。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

【ご回答方法】

- ①スマートフォンからご回答いただく場合は、右記の画像を読み取っていただき、ご回答をお願いいたします。
- ②パソコンからご回答いただく場合は、以下のURLより、ご回答をお願いいたします。
URL：https://questant.jp/q/kuradashi_202410



あおぞら投信からのお知らせ

【動画コンテンツのご案内】

弊社Webサイトにて、各種動画コンテンツをご用意しております。

URL：https://www.aozora-im.co.jp/movie?kuradashi&report_202410



マーケット解説動画やファンドの運用状況についての動画を今後とも掲載していく予定でございます。ぜひご覧くださいませ。

【公式SNSのご案内】

弊社は各種公式SNSアカウントにて、情報発信を行っております。詳しくは弊社Webサイトをご覧ください。

URL：https://www.aozora-im.co.jp/aozorafarm/sns.html?kuradashi&report_202410



◆フォロー方法

上記URLをクリックまたは画像を読み取っていただき、各SNSアカウントへ移動後、「フォローする」をクリックしてください。または、各SNSアカウントより「あおぞら投信株式会社」を検索していただき、「フォローする」をクリックしてください。

＼皆さまからのフォローやいいね！をお待ちしております！／

